

第4章

連続性・一貫性 のある実践例

第4章は、具体的な実践例で、見開きの右側、小学校教育とのつながりの中に、その事例から読み取ることが出来る「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記載しています。

また、本章の最後に、飼育物と関わって遊ぶ中で見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のエピソード事例を掲載しています。

ねらい

- リレーごっこのルールを理解し、チームの友達と考えを伝え合いながら自分たちで遊びを進める楽しさを味わう。
- 勝敗のある遊びを通して人数や得点などを数えたり、比較したりし、数量への興味・関心をもつ。
- 自分の力を発揮し思い切り走る心地良さや、友達と競い合う楽しさを味わう。



環境の構成

- 自分たちで始められるよう、個数、色、片付け方などの表示を付けた遊具（コーン、バトン、カラー帽子、ゼッケン等）を用意しておく。
- 勝敗を自分たちで表示できるようにホワイトボードやマーカー、得点表（数字を書いた紙）を用意する。

幼児の姿

- 前年度の年長組がやっていたリレーを思い出し、コーンやバトンを持ち出してエンドレスリレーを始める。
- 繰り返すうちに勝敗がある遊びだということに気づき、みんなで遊び方を考える。
- 考えを言い合いながら、人数が同数になるように数え、1対1で対応させるなどしてチーム分けをする。新たに友達を加える、一人が2回走るなどのアイデアが出る。
- 友達の走る速さや相手、勝負を意識して走るようになる。
- 繰り返す中で勝敗が分からなくなる。自分たちで得点表をめくったり、ホワイトボードに数字を書いたりしている。
- チームの仲間を応援し、勝つと喜ぶ一方で、負けると悔しがったり、泣いたりする幼児も出てくる。

指導(援助)のポイント

遊びの目的に合ったルールを、幼児と共に考え、共通化する。

指導(援助)のポイント

それぞれが考えを出している姿を認め、伝え合えるように助言したり、よりよい方法を共に見出したりする。

指導(援助)のポイント

幼児が自分なりに数字や文字で表そうとしている姿を認め、必要に応じて手伝う。

指導(援助)のポイント

様々な気持ちに寄り添い、共感する。次への意欲につながるように励ましていく。

経験している内容

- 遊びに必要なものを自分たちで準備する。
- ルールの必要性に気づき、自分たちで目的にあったルールを考えて決め、守って遊ぶ。
- 友達に自分の考えを言葉で伝えたり、相手の考えを受け入れられたりする。
- 人数を数えたり、同じ数にするための方法を考えたりする。
- 勝敗の結果を数字他で表示しようとする。
- 自分の力を思い切り出して、友達と競い合う面白さを感じる。
- 勝ってうれしい、負けて悔しい気持ちを味わう。

期待される育ちや学び

- 自分たちで遊びを進める中で、自分の考えを相手に分かるように言葉で伝える、相手の考えを聞くという経験をしている。この経験が小学校以降の生活や学習の場面での対話する力につながる。
- 人数を数える、人数を比較し同じ数に揃える、走る距離、順番など、数量に関する出合いの場面がたくさんある。幼児が遊びへの意欲から必要感を感じ、自分で考え、気づき、理解し、活用することで、数量の感覚が豊かになっていく。
- 勝敗のある遊びを通して、負けて悔しい、勝ってうれしいなど様々な感情を味わうことが、小学生以降で出会う多少の困難や葛藤の場面においても、前向きに乗り越えようとする力につながっていく。
- リレーごっこを通して、思い切り走る、繰り返して走る、バトンを渡す相手を意識して走る、体をコントロールするなどを経験している。走力・身体の操作性の向上、体力の増進につながっている。

小学校教育とのつながり

① 「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」につながる部分

- 学習の中で発見する喜びや、できるようになった喜びを味わう。
- 授業中、教師や友達と対話する中で、その言葉の意味を理解して、自分にはなかった気付きや発見を喜ぶ。
- 困った時や話したいことがあるとき、自分の言葉で考えて自分から伝える。
- 教室内、学校内にある表示や図、文字等の意味を理解する。



② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる部分

- 遊びの場を自分たちで準備する。 自立心
- 自分のめあてに向けて思い切り走る、落とさないようにバトンを渡す、走るスピードをコントロールしながらコーナーを回る。 健康な心と体
- ルールの必要性に気付き、自分たちでルールを考えて決め、守って遊ぶ。 道徳性・規範意識の芽生え 自立心
- 自分の考えを言葉で表し、友達と伝え合いながらチームの人数を数えたり、同じ数にするための方法を考えたりする。 言葉での伝え合い 思考力 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- リレーに勝ってうれしい、負けて悔しい気持ちを味わう。 道徳性・規範意識の芽生え 自立心

③ 「港区立小中学校 MINATO カリキュラム」の各教科につながる部分

- 算数** (MINATO カリキュラム 算数 P 4 参照)
 整数の意味と表し方 「10までの数」「20までの数」
 具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表す
 整数の加法・減法 「1位数の加法・減法」
- 体育** (MINATO カリキュラム 体育 P 4 参照)
 競い合う楽しさ、調子よく走る 体を巧みに操作する
 「1・2年生折り返しリレー遊び 低い障害物を置いてのリレー遊び」



家庭教育とのつながり

- 家庭では、子どもが自分の言葉で気持ちを表せるように、大人が急がずに待つ姿勢を大切にする。
例 「聞いてみよう」 など
- 家庭でも文字や数への興味がわくような環境を整えてもらうとともに、ドリルや習い事に頼らずとも、買い物や手伝い等の身近な実体験を通して、数量への関心や豊かな感覚が養えることについて理解を促す。
例 「家族分のお皿やお箸を並べてくれる?」「このおやつを3人で分けてみて」 など
- 競い合うことを通して様々な感情体験を味わうことが、心の成長につながることを踏まえ、負けて友達のせいになしたり、やりたくないなど落ち込んだりしても、自ら乗り越えていけるよう、家庭でも十分に気持ちを受け止めてもらう。
- 走ることに限らず、親子で近隣を散歩する、近隣の公園を活用し、固定遊具やボール等で遊ぶなど、短時間でもいいので、親子で楽しみながら体を動かして遊ぶ経験を増やしてもらう。
例 「いつもならバスに乗るけれど、今日はここから歩いて帰ってみようか」 など

ねらい

- 活動の区切りや時間を意識して生活する。
- 1日の生活の流れが分かり、自分から進んで行動しようとする。



環境の構成

- 1日の生活の流れが分かり、自分たちで決めた時間に遊具の片付けや準備が始められるよう、学級で話し合いの機会をもつ。また見通しをもって行動する大切さを幼児と確認していく。
- 時間の見通しをもてるように、幼児が見やすい位置に時計を置く。また集まる時刻を示す数字のところにシール等の印をつけておく。
- カレンダーに行事等の日程を記入し、1日の流れが掲示してあるボード等を用意して、見通しをもたせる。

幼児の姿

- 毎日の繰り返しの中で、集まる時刻を少しずつ意識し始めている。次の活動があることが分かり、期待をもって参加しようとしている。
- 時計を見て会が始まる時刻に気付いた幼児が、友達に知らせ、自ら率先して片付けをして席についている。
- 一方で、遊びに夢中になり、周りの友達が集合していることに気付かずに会に遅れそうになる姿もある。
- 周りの子が気付いて一緒に片付けようと声を掛け合う、自ら手伝おうとする幼児の姿も見られる。
- 会が始まる前に、トイレや手洗い・うがいを済ませて席に着く。

指導(援助)のポイント

自分で気付いて行動できたことを学級の中でしっかり認めていく。

指導(援助)のポイント

遊びの様子によって、幼児に早めに片付けの時間を伝え、できたことを認めていく。

指導(援助)のポイント

幼児同士で気付いて、声を掛け合うように伝える。

指導(援助)のポイント

時間を守って生活する大切さや気持ちよさをみんなで共有する。

経験している内容

- 一日の生活の見通しを持って行動する。
- 片付けにかかる時間(量)の感覚がわかり、時計を見て、片付けにかかる時間を予測して、自分たちで行動しようとする。
- 自分で時間を意識して行動することの大切さを感じる。
- 学級のみんが時間通りに集まったことを心地よいと感じるとともに、自分たちで決まりを守って生活しようとする。

期待される育ちや学び

- 自ら主体的に遊ぶ時間には、十分に遊んだという充実感や満足感、また集まった時には友達と活動に取り組んだ充実感や満足感を味わうなど、メリハリのある生活を組み立てることで、時間に対する概念や感覚が養われ、意識した行動が取れるようになっていく。
- みんなで気持ちよい生活を送るためには、時間を守ることが大切であるということ、折にふれて気付かせることが、自分で考えて見通しをもって行動することや、自分たちで生活をつくっていくこうとする姿につながっていく。

小学校教育とのつながり

① 「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」につながる部分

- 時間割に合わせて教科書や必要な道具を準備する。
- 安全な登下校方法を知り通学する。(登校時刻、下校時刻、放課 GO → など)
- 1日の流れを理解し、時間割に沿って生活する。
- 授業に間に合うように、体育着に着替えたり、特別教室(音楽室、体育館など)へ移動したりする。



② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる部分

- 自分がしなければならないことを自覚して行動するようになる。 **自立心**
- 遊びや生活の中で、見通しをもち、時間の流れを意識して行動するようになる。 **健康な心と体** **社会生活との関わり**
- 基本的な生活習慣が確立し見通しを持って生活できるようになる。 **健康な心と体** **自立心**
- 片付けにかかる時間を予測する。 **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**
- 文字や数への意識が高まり、時計で時刻を読んだりするようになる。 **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**
- 幼児同士で声を掛け合って、みんなが時間通りに集まれるように行動する。 **協同性** **道徳性・規範意識の芽生え**



③ 「港区立小中学校 MINATO カリキュラム」の各教科につながる部分

算数 (MINATO カリキュラム 算数 P 4 参照)

数と計算：整数の意味と表し方 「10 までの数」「20 までの数」

量と測定：時刻の読み方 時間の単位 「〇時〇分」



家庭教育とのつながり

- 起きる時刻、寝る時刻、食事の時刻、お風呂に入る時刻などを子どもと一緒に決めてもらい、子どもにとってふさわしい生活リズムが小学校での学習習慣や学習態度につながることへの理解を促す。
例：「よく気付いたね。今、〇〇する時間だね」等
- 子どもが時間の感覚を養い、見通しをもって行動する経験を積み重ねられるように、毎朝、家を出る時刻に間に合うように自分で準備や身支度をする生活を心がけてもらう。
例：「自分で間に合うように準備できたね。」等
- 生活の中で、時計や時刻の分かるものを用いる等して、数量や時間の感覚を身に付けられるようにサポートしてもらう。
例：「時計の針が〇までに～をやろう」等

実践例
3

園の思い出を振り返り、みんなで話し合おう

5歳児後期
2月

ねらい

- 修了を意識し、園生活で楽しかったことや頑張ったことなどを振り返り、自分の成長を感じる。
- 自信をもって自分の考えを伝え、友達の言葉にも真剣に耳を傾けて、互いの考えを受け止め合い気持ちに共感し合う。



環境の構成

- 友達の発言に関心をもち聞こうとする雰囲気をつくるために、円形や馬蹄形など、互いの顔が見えるように椅子を配置する。
- 話し合う内容が分かり、園での経験が思い起こされるような掲示物（作品や写真等）を用意する。
- 話し合われたことが共有できるように文字や文にして掲示する。（ホワイトボード、模造紙への記入など）

幼児の姿

- 教師の話や掲示物などから楽しかった園生活を思い出し、伝えたいことを挙手して発言する。
- 友達の話を聞いてその時のことを思い出し、共感の声をあげたり、自分の思ったことを口々に付け加えたりする。
- なかなか発言できない幼児も教師や友達の励ましを受けながら、時間をかけて考え、発言する。
- 声が小さかったり、周囲がざわついて聞き取りにくかったり、言葉が足りなかったりして話が分かりにくい時に、「みんな静かに」「もう一回言って」「〇〇ってどういうこと？」などの声があがる。
- 話をした友達の思いをみんなで共有し、それに合ったふさわしい言葉や文について考えを出し合ってまとめる。

指導(援助)のポイント

幼児が楽しかった園生活を思い出せるように、思い出を語ったり、質問したりする。

指導(援助)のポイント

仲間とのつながりや学級(学年)の一体感が実感できるように、共感し合う姿を受け止める。

指導(援助)のポイント

幼児が受け止められたことを実感し、自信がもてるように、うなずきながら聞いたりホワイトボードに書き起こしたりする。

指導(援助)のポイント

声の大きさ、伝え方と、話を聞く側の態度について幼児自身が意識できるように、自分たちで話し合いを進めようとする姿を認めながら指導する。

経験している内容

- 挙手する、指名されたら話すなど、話し合いの約束事を守り行動する。
- 経験したことを思い出し、伝えたい出来事や思いを言葉で表す。
- 友達の話に興味をもち、状況を思い浮かべたり、話の内容に共感したりしながら聞く。
- 話の内容が、より聞き手に伝わるような言葉や文を考え、自分の気持ちを様々な言葉で表現する。
- 頑張ったことを思い出したり、以前と今を比較して自分たちの成長を実感したりして自信をもつ。

期待される育ちや学び

- 小学校入学を間近に控えたこの時期には、自分の考えを相手に分かるように話すこと、相手の話をよく聞いて理解しようとする事への意欲や力が育ってきている。このような学級(学年)全体での話し合いの中で、みんなの前で発表する時の話し方、話し合いの約束事などを理解し、自分の発言をみんなに受け止められ、共感してもらって経験をすることが、小学校においても自信をもって積極的に発言しようとする意欲や態度につながっていく。

小学校教育とのつながり

① 「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」につながる部分

- 学習の中で発見する喜びや、できるようになった喜びを味わう。
- 授業中、教師や友達と対話する中で、新たな気付きや発見を喜ぶ。
- 板書された書き言葉と補助的な絵、写真等を見て、質問の意味をよく聞いて理解する。
- 困った時や話したいことがある時、自分で考えて自分から伝える。
- 自分の名前を文字で書く。
- 問いに対して思ったこと、考えたことを文字で書く。
- 教室内、学校内にある表示や図、文字等の意味を理解する。



② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる部分

- 挙手をして指名されてから話す、教師や友達が話している時には話を聞くなど、話し合いの約束事を理解し、守ろうとする。 **道徳性・規範意識の芽生え** **言葉による伝え合い**
- 経験したことや考えたことを、相手に分かるように話そうとする。 **言葉による伝え合い**
- 自信をもって自分の考えを言葉で伝える。教師や友達に支えられて発言する。発言したことを受け止めてもらえた喜びを感じる。 **自立心** **言葉による伝え合い**
- 教師や友達の話に興味をもって聞き、理解しようとしたり、共感したり、疑問に思ったことを質問したりする。 **言葉による伝え合い**
- みんなで話し合った内容を表すのにふさわしい言葉を考え、提案する。 **協同性** **言葉による伝え合い**
- ホワイトボード等にかかれた文字や写真、絵などに関心をもって見たり、内容を理解しようとしたりする。 **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**
- できるようになったことや頑張ったことなどを自覚して自分たちの成長を実感したり、学級（学年）の仲間と互いのよさを認め合ったりする。 **自立心** **協同性**

③ 「港区立小中学校 MINATO カリキュラム」の各教科につながる部分

国語

(MINATOカリキュラム 国語 P4参照)

話すこと：身近なことや経験したことなどについて話す

聞くこと：大事なことを落とさないように聞く

1年生上「おはなし きいて」「あかるいこえで」

話し合い：話題に沿って話し合う

1年生下「おみせやさんごっこをしよう」「これはなんでしょう」

生活

(MINATOカリキュラム 生活 P4参照) 自分たちの生活

自分たちの生活は地域で生活している人々や働いている人々と、様々な場所で関わっていることを観察し、理解する。



家庭教育とのつながり

- 園における様々な経験を家庭でも話題にし、子どもが自分の思いや努力したこと、頑張ったことなどを、自分の言葉で話そうとする気持ちを受け止めてもらう。
- 話の内容が分からない時や言葉の言い回しが正しくない時には、よい聞き手となり言葉を引き出したり、正しい言葉遣いを知らせたりして、話したい意欲を高めてもらう。
例「そういう気持ちは〇〇っていうふうに言うんだよ」など
- 子どもが文字への興味をもち、自分から読んだり書いたりしている時には、正しい鉛筆の持ち方や姿勢を意識して見守ってもらう。例「背筋がピンと伸びていて、いい座り方だね」など
- 就学を前にした子どもの期待や不安を受け止め、安心し自信をもつことができるような言葉を掛けてもらう。
例「大きくなったね」「小学校に行ったら、〇〇が楽しみだね」など

ねらい

- 生活発表会という共通の目的に向けて、自分の考えを友達に分かるように伝えたり、友達の考えを受け入れたりして話し合いを進め、力を合わせて取り組む。



環境の構成

- 自分たちで決めた取組の内容や予定（発表会の劇に必要なものの作成、練習のスケジュールなど）が、幼児同士で視覚的に見て分かり、確認できるように表示しておく。
- 自分たちで主体的に進められるよう、用具や材料を選択できるように用意する。
- 取組の過程で味わう幼児のつまずきや葛藤の場面を捉えて、自分たちで解決できるように話し合いの時間を十分に取る。

幼児の姿

- 劇遊びの大道具で使う背景を作成するため、4、5人の幼児が絵の具を用意して、大きな段ボール板に「森」を塗り始める。
- 「森」を作っていく中で、木の色を塗り始めると、茶色と緑色が混合し、塗り方について言い合いになる。担任はその様子を見て、それぞれの幼児がイメージした森について聞く。
- 森のイメージを話しているうちに、絵や図鑑を持ち寄って、「こんな感じだよ」と意見を出し合う。
- 「わかった！茶色に塗ってから緑の葉っぱを描くことにすればいい」と新たな提案をする幼児がいる。
- 新しい提案をきっかけに話し合いが始まり、方法や塗り方など考えを出し合う。
- 幼児は自分たちが納得した塗り方で色塗りを完成させ、満足する。

指導(援助)のポイント

幼児同士が互いに考えや気持ちを聞くことができるよう、時間を十分に取る。

指導(援助)のポイント

解決を急がずに、幼児の言葉を丁寧に受け止め、自分達で主体的に解決していけるように導いていく。

指導(援助)のポイント

絵本や図鑑など、幼児たちが手に取りやすいようにする。

指導(援助)のポイント

双方の気持ちを受け止め、自分たちで解決をできるように見守る。

指導(援助)のポイント

自分たちで解決できた喜びに教師も共感する。

経験している内容

- 目的を理解して仲間と取り組む。
- 友達の考えをよく聞き、自分の考えをはっきりと相手に分かるように伝える。
- 友達の気持ちを理解し、葛藤を体験したり折り合いをつけたりする。
- 自分たちで疑問に思ったことを絵本や図鑑で調べたり、色が混ざる現象に気付いたりするなど、様々な発見をする。
- 自分たちで相談し、試行錯誤・工夫するなどして、完成させた満足感を味わう。

期待される育ちや学び

- 思い通りに話し合いが進まない時には、教師の仲介が必要な時もある。しかし、そこで教師が一方的に解決を図るのではなく、話し合いの内容を整理し、幼児同士が互いの気持ちを理解し合い、どうしたら良いかを自分たちで考えるように促す。自分たちで解決できるよう導くことで、幼児は自信をつけ、友達と協力することの楽しさや価値を学んでいく。
- 友達と一緒に劇に必要なものを作る活動を通して、豊かな感性を養っていく。このような経験が小学校以降の学級の友達と共に学ぶ姿勢や、意欲的な学習の態度につながっていく。

小学校教育とのつながり

① 「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」につながる部分

- 教室で学級の友達と一緒に学ぶことの喜びを感じる。
- 授業中に教師や友達と対話をする中で、その言葉の意味を理解して、自分にはなかった気づきや発見を喜ぶ。
- 困った時や話したいことがあるとき、自分から自分の言葉で伝える。
- 話し合うことで問題が解決できることが分かる。
- 小学校の教師、学級や学年の友達、縦割り班の上級生など、小学校のいろいろな人や、地域の方と関わる中で、自分は〇〇小学校の一員であることを自覚して行動する。
- 困っている友達がいたら、聞いてあげたり教えてあげたりする。



② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる部分

- 劇の背景を作るといった共通の目的に向かって、友達と一緒に考えを出し合う。 **協同性**
- いろいろな材料や道具を使って工夫しながら、協力してイメージしたものを作る。 **豊かな感性と表現** **自立心**
- 友達と思いを主張し合うことを通して、葛藤を体験し、その中で折り合いをつけようとする。 **言葉による伝え合い** **道徳性・規範意識の芽生え**
- 自分の興味を持った事柄に対して、絵本や図鑑、地図などで調べようとする。 **思考力の芽生え** **社会生活との関わり**

③ 「港区立小中学校 MINATO カリキュラム」の各教科につながる部分

国語

(MINATOカリキュラム 国語 P4参照)

話すこと：身近なことや経験したことなどについて話す

聞くこと：大事なことを落とさないように聞く

1年生上「おはなし きいて」「あかるいこえで」「こんないし みつけたよ」

話し合い：話題に沿って話し合う

1年生下「おみせやさんごっこをしよう」「これはなんでしょう」

書くこと：経験したことや想像したことについて書く

1年生上「かけるようになった」「あつまれ ふゆのことば」

家庭教育とのつながり

- 子どもにとってうまくいかない場面やあきらめそうな場面があっても、保護者が先回りして解決しないよう、子どもの前向きな気持ちを引き出し、支える言葉をかけてもらうよう、保護者に働きかける。

例：「一生懸命やっている〇〇ちゃんは素敵だね」「大丈夫だよ」

- 行事への取組などでの子どもの頑張りを認めてもらうとともに、友達の頑張りにについても話題にしてもらい、育ち合う仲間としての友達の存在を認め合ったり、力を合わせたりすることの価値を家庭でも共有してもらう。

例：「〇〇ちゃん、～を考えたんだね」「みんなで話し合っただけだね」

下の事例は、他の実践例とは違い、園内研究会等で用いられることの多い、エピソード形式の事例となっています。

園の遊びの中で見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のもので、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は接続期のみではなく、それまでの園での遊びや活動の中でも見られます。教師がどのようなねらいをもち、環境を準備したことで、幼児がどのような経験をしているか、また、それがどのような「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながっているかを考えてみましょう。

エピソード
事例

飼育物と関わって遊ぶ中で見られた 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

5歳児
7月

1 ねらい

- 学級でカブトムシを飼育する中で虫への親しみや関心をもち、大切にしようとする
- 友達とカブトムシに触れたり観察したりしながら、気付いたことを伝え合ったり、遊びに取り入れられたりして楽しむ。

2 環境の構成

- 幼児の目につきやすい場所に飼育ケースを置く。また、多くの幼児が関わる状況になった場合を想定し、飼育ケースを置いた時に見やすい高さの台を用意する。
- 気付いたことや思いついたことを遊びにつなげて楽しめるよう、目につきやすい場に取り出しやすく素材や用具を揃えておく。作ったカブトムシを使って集って遊べる場として、木を幼児とともに作る。

エピソード

学級で飼育しているカブトムシの飼育ケースの周りに数名の幼児が集まっていた。虫に詳しい幼児も実物は怖いようで、カブトムシの背中にそっと触れてみるだけであった。教師は、幼児と一緒にカブトムシをよく見られる場所へ机を設定し、その上にケースを移動し、カブトムシをケースから出した。カブトムシは爪が鋭く、自分で持とうとしたA児は思わず落としてしまった。

教師が手の甲に乗せると、カブトムシは腕へ這い上がっていった。幼児たちは「先生のが好きなんじゃないの」と喜んだ。教師が「痛いな〜」とつぶやくと、B児はカブトムシの足をよく見て、自分の指でVの字を作り「こんな風になっているよ」と言った。教師は「そうだね、先が割れているね。足もギザギザしているね」と答えた。しばらく、幼児たちがカブトムシを見たり触れたりして遊んだ後に飼育ケースに戻すと、カブトムシは腐葉土の中に潜った。幼児たちは「寝ているんだね」と言った。教師は「そうだね、昼間は寝ているって本に書いてあったね」と答えた。外国籍幼児Cが「しーっ」と口に指を当てて静かにする身振りを見せたので、教師は「カブトムシが寝ているからね」と、C児の行動の意味を周囲の幼児にも伝えるようにした。

その後、A児、C児が飼育ケースの周りでカブトムシの絵を描き始めた。実物をよく見ながら描く様子が見られた。カブトムシ作りを始める幼児もいた。人数が増えてきたので、教師が壁に、作ったカブトムシが置けるように紙で木を作り始めた。材料の紙に黄色い部分を見つけたD児は「木の蜜があるよ」と、自分のイメージしたことを友達に言葉で伝えていた。その後は作ったカブトムシを壁の木の傍に持っていき、カブトムシごっこや、作った虫を使ったゲームが始まった。

自然との関わり・生命尊重

知識はあっても実物のカブトムシに触れたことがない幼児が多かった。学級でカブトムシを飼育することで、教師や友達がカブトムシと関わる姿がモデルとなり、他の幼児も関心や親しみが高まった。

生き物と関わることで、鋭い爪による痛みといった、予想外のことや自分の思うようにならないことも体験していた。思わず言葉で表したくなるような驚きや気付きなども経験し、教師や友達に伝えようとしていた。

言葉による伝え合い

幼児はカブトムシを見たり触れたりすることを通して、気付いたり予想したりしたことを言葉で表している。カブトムシという幼児にとって興味のある対象があることで、言葉での伝え合いが生まれやすくなる。外国籍の幼児が、言葉でなく動作で表している意図を教師が汲み取り、代わりに言葉に表して伝えることで他の幼児に伝わるようにしている。

豊かな感性と表現

カブトムシは、幼児の心を動かす対象だったため、言葉や動作、描画、製作など、様々な方法を用いての表現を楽しむことができた。描画や製作は、環境として自分たちで持ち出し、選べるように素材や用具が用意してあることで、今までの経験を生かし自ら取り組み、作ったカブトムシで遊ぶ姿につながった。

このように、園生活の様々な経験を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が育まれていく。園生活の中での経験は総合的な学びであり、教師が学びの連続性を意識しながら環境構成と援助をすることが大切である。



